



ダンスで土岐を盛り上げよう！ TKC土岐市駅前Danceイベント

◆主催：ときし駅前商店街振興組合・中央商店街振興組合・土岐市商店街連合会

■土岐でダンスを舞い踊る

10月29日(日)。JR土岐市駅前にある「ゆのみの里広場」には、本日のイベントの開始を待つ親子連れが朝から大勢詰めかけていました。しかし、傘を差す人の姿が目立ちます。それもそのはず、当日は台風22号が日本列島に近づいており、時折雨足が強くなるなどイベントを実施するに当たっては厳しい天候に見舞われました。

同日、セラトピア土岐で開催予定だった第7回土岐さんま祭りが雨天中止になるなど、他のイベントにも影響が広がる中、ゆのみの里広場で開催される「TKC土岐市駅前Danceイベント」(以下「TKC」といいます。)は、ダンスステージをブルーシートで覆うなど対策を実施。何とかイベントが開催できる運びとなりました。なおTKCとは、土岐市を英語で表記した「Tok City」から名付けられたそうです。



▲ステージ上でのダンスを見る多くの観客

TKCでは、参加チームがステージ上でダンスを披露するDanceパートと、DJが自慢の腕を披露するDJパートが交互に行われる形で進行され、多くの観客で賑わいました。

Danceパートで特に目立ったのが子供たちで、日頃の練習の成果を思う存分発揮していることがよく分かる素晴らしいダンスばかりでした。中にはバク転や側転を見事に決めるチームもいるなど、各チームにおいて見応えのあるダンスをしっかりとアピールすることができていました。

そうした我が子の晴れ舞台をしっかりと見届けようと、ステージ前列では多くの保護者の姿が見られ、さながら学校などでの発表会のような雰囲気。ダンスを披露する子供たちのチームが交代するごとに、それを見守る保護者の方も入れ替わっている様子で、イベント会場には最初から最後まで常時多くの観客が詰めかけていました。

また、DJパートではダンスステージを自由に開放。音楽が流れている間に各参加チームがステージ上で入り交じり、その音楽のリズムに合ったダンスを披露しました。記者の私はダンス勘がないため、音楽が流れていてもそれに合うダンスを踊ることは難しいのですが、ステージに上がった子供たちは難なくダンスを踊ることができています。その姿を見ていて、本当に素晴らしいと感心するばかりでした。



▲DJパートで踊る子供たち

■地域をもっとより良くしたい

今回のTKCの実行委員である宮里さんに、このイベントについてお話をお伺いしました。

「多治見や瑞浪と比べて土岐ならではの特徴が見出しにくい中、学校で授業の一環として行われているダンスを土岐のイメージとして作ろう、ということでTKCを始めました。私がこのイベントを担当し始めた4年前は、参加人数が50人いるかないかくらいだったのですが、今回は300人を超えてきており、来年も既に決まっているだけで400人を超えています。そのため、来年は2日間に亘ってTKCを行う予定です。

TKCを通じて地域の子供たちが学校やダンススタジオの垣根を越え、自分よりも小さな子供に対して教育を含めた面倒を見るようになって欲しいですね。」

ダンスやDJと聞くと、派手なイメージを思い浮かべる方もいらっしゃるかと思います。しかし、TKCでそれらを通じて目指しているこ

と。それは、純粋に地域をもっとより良くしたい！ということであるというのは、もっともっと知られて欲しいことだと感じました。

■一大イベントとなる予感

何か新しいことを始める時、周りから怪訝な目で見られたり、十分な協力を得られなかったりすることはしばしば起こり得ることで。途中で思うように上手くいかなくなり、挫折をしまいそうになることもあるでしょう。しかし参加者が1人、また1人と集まっていく中で、ある臨界点を超えた瞬間、新しく始めたことはムーブメントとなり、また無くてはならない存在になります。

TKCも当初小さなイベントから始まったのが、次第に多くの参加者が集まるイベントへと成長してきています。土岐と言えばダンス、そう言われる日も遠くないのかもしれない。

イベントの最後に行われた記念撮影。ステージ上は溢れんばかりの参加者で一杯となりました。ダンスを軸に大きな広がりを見せているTKCの今後がとても楽しみです。



▲参加者みんなで記念撮影

商店街が陶芸作品のギャラリーに！ 商展街2017

◆主催：多治見ながせ商店街振興組合

■素敵な陶芸作品が商店街で見られる

秋と言えば、皆さん何を想像されますか？

読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋・・・他

にも数え切れない、その人その人の秋があると思います。今回取材に訪れた多治見ながせ商店街はというと、芸術の秋ということになるのでしょうか。

10月7日(土)～10月29日(日)の間、陶器の街多治見に縁のある陶芸作家さんの作品を、商店街の各店舗に並べるアートイベント“商展街”が、今年も多治見ながせ商店街にて開催されました。

今年の商展街には16店舗、26名の作家さんが参加。それぞれの作家さんが制作した個性溢れる作品が各個店内で展示・販売されており、単にお店の商品や料理だけではなく、陶芸作品も楽しめてしまうお得なイベントとなっています。また、作品が展示・販売されているお店の前には“な”の文字が大きく描かれたフラッグが設置されており、初めて商店街に来た人でも迷うことなく作品を巡ることができます。



▲作品展示の目印となるフラッグ

今年の商展街で展示・販売している作家さんの数が最多の9名を誇っているのは玉木酒店さん。実際に店内に入ってみるとお店の一角が陶芸作品で占められており、あたかもギャラリーにいるのではないかと思わせるほどのしっかりとした展示がされていました。

個店としては売り場スペースにもっと商品を陳列して、売上向上を目指すほうがいいのではと一見考えがちなところですが、玉木酒店店主で多治見ながせ商店街振興組合の玉木秀典理事長は、「作家さんの作品を展示するスペースを設けるために店内の商品を整理整頓することで、普段よりも商品が目立つようになりますし、店内のレイアウトも変わってきますので、お客様に対して驚きを与えることができます。」と、店内に作品を展示するメリットについて話してく

ださいました。



▲玉木酒店に展示された陶芸作品

それ以外にも、お客様が陶芸作品を見る目的でお店に入ることができるため、入店の敷居が下がることや、作家さん側にとっては展示作品が売れることで収益を得ることができるなど、商展街の様々なメリットを挙げる玉木理事長。「今年で7回目ですが、10回目の開催を目指して個店と作家さんとの交流が今以上に深まっていくといいと思います。」と、今後の商展街をしっかりと見据えている様子うかがえました。

商展街の中で少し変わった展示として目を引いたのが、多治見まちづくり株式会社さんにあった「タイルマンを造る会」の展示です。タイルマンを造る会は、多治見を誇りに思い、タイルを愛し、タイルのPRを通じて地域活性化につなげたいと思うメンバーが集まった組織で、これまでの会の活動実績や新聞記事などがパネルで展示されていた他、小袋にモザイクタイル詰



▲タイルマンを造る会の展示

め放題で500円という珍しい商品も販売されていました。言うなれば、タイルをPRする会の活動そのものをアートの的なものと捉えた展示と言えるでしょう。

■商店街におけるアートの可能性

多治見ながせ商店街で開かれた今回のアートイベント。アートと聞くとなんだか小難しく感じる方もいらっしゃるかと思います。しかし、付き合い方次第で商店街にこれまでにない可能性を開いてくれる分野でもあります。その可能性の1つとして、**商店街の歴史や名物、あるいは商店街が位置する市町村固有の文化・産業を、アートを用いて商店街で強くアピールすることで来街者の増加が期待できる**ことが挙げられます。今回のイベントで言えば、陶器で有名な多治見の地場産業を、陶芸作家さんの力を借りて商店街でアピールすることで、来街者を増やす有効な取り組みと考えることができます。

このようなアートを用いた商店街活性化の事例は全国各地で見られています。例えば、東京都台東区の谷中銀座商店街では猫がよく出没することに着目し、地元の東京藝術大学の学生と連携して7匹の猫の彫刻を商店街に設置。その結果、その猫の彫刻目当てに来街する人が現れたことで、商店街の客足の増加につながっていま

す。

また茨城県常陸太田市の鯨ヶ丘商店会では、同県で地域活性化の一環として開催された茨城県北芸術祭と連携。アーティストが商店街にある建物の住人1人1人にインタビューし、印象に残った言葉などを表現したピンクのパネルを建物の窓にはめ込むというプロジェクトを展開しました。その結果、来街者はそのパネルを見ることで商店街の歴史や人間模様を身近に感じることができ、商店街の人たちと交流するきっかけへと繋がっていったそうです。

それ以外のメリットとして今回の商展街を例に取れば、既述の通り、個店単独では集客できなかった新たな顧客層への接点を持つことができたり、店内のレイアウトをこれまでとは違った斬新なものへと変えることができたりすることが挙げられます。

商業とアートは本質的には目指している方向性は異なるのですが、両者の間にはWin-Winの関係が成り立つ絶妙なバランスがあると思います。そのバランスを上手く掴み、アートの力を借りることで、**商店街単独では難しかった魅力のアピールを飛躍的に向上させることが可能になるのです。**

高山で通を唸らす文房具が楽しめる！ Pen Shop IMAI

■新しさと懐かしさが同居する居心地良いお店

高山本町三丁目商店街の一角にある、Pen Shop IMAI。ここは創業60年を誇る高山市内の(有)いまい文具店の3代目、今井康貴さんが今年5月1日にオープンした文具販売のお店です。

店主の今井さんは大学卒業後保険会社に勤めていましたが、会社の方針が自分の思い描く方向とは異なってきたことなどから退職し、実家

の文具店でお手伝いを始めます。その間に独り立ちしたいという思いが徐々に芽生えてきたこと、また文房具店もやり方次第ではまだまだ可能性がある

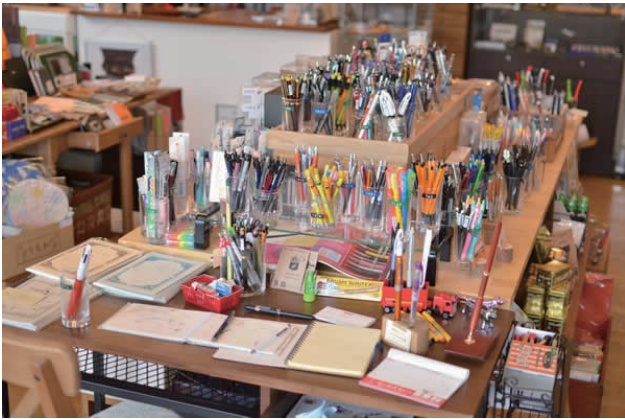


▲店主の今井康貴さん

と思えたことなどから、それらの思いを体現するべく自分のお店を開業する運びとなりました。

店内は木目を基調としたナチュラルカラーで構成されており、とても居心地の良い空間となっています。そこに今井さんがセレクトしたオシャレな最新商品などが品揃えされていますが、ところどころに昔ながらの什器を使っているのが面白いところ。

「代々続く(有)まい文具店の延長線上にこのお店がある、という歴史や懐かしさも感じられるようにしたい。」と今井さんは話します。



▲居心地の良い店内に並ぶ文具

■体験価値・希少価値の提供による差別化

今井さんはお店を開業する前に上手くいっている文房具店を回り、その成功要因について研究を重ねます。その結果、店内で手紙を書くといったお店でしかできない特別なサービスがあることが、その要因の1つとして浮かび上がってきました。それに加えて、お店からの景色が良く観光スポットにできたらいいなと考えていた今井さんは、それらを結実した形として、宮川を眺めながら手紙を書く体験スペースを設けることにしたそうです。

また、ネットショッピングにも精力的に取り組んでおり、時間に余裕があるときにその作業に取り組むことで、店外での売上に貢献しています。そこで人気なのが、ペンに無料で手彫りのお名入れをするサービス。Pen Sho



▲宮川を見ながら手紙が書ける体験スペース

I M A Iで行うお名入れは、主流のレーザー刻印機ではなく、希少な年代物の機械式刻印機を使っています。そのため、ネットショップを出店しているAmazon上では、他店より価格が高くて、その希少なサービスを求めて今井さんのお店に商品を注文するお客さまも多いのだとか。

■本物の純粋な文房具好きの人も来店

今井さんは、本物の純粋な文房具好きの方がTwitter(ツイッター)やSNSを見て遠くからお店に足を運んでくださるケースもあると言います。岐阜を代表する観光地・高山という地の利を活かし、本当に文房具が好きの人が集まる場所へ。今井さんの挑戦はまだ続きます。

高山市本町3-5 2階

TEL: 0577-32-0344

営業時間: 10:00~20:00

定休日: 火曜日

【取材・記事 中小企業診断士 加藤正浩】



平成29年度予算 地域・まちなか商業活性化支援事業 (個店連携モデル支援事業) 4次募集開始

本事業では、商店街等内で事業を営む複数の個店が連携して行う、販路開拓や新商品開発の取組を支援することで、商店街区内の個店同士の相乗効果が生み出す新しい事業の創出を促し、商店街等の活性化につなげることを目的としています。

また、支援を行った取組については、モデル事業として、他の商店街等において行う個店が連携して行う取組の参考となることが求められます。

◆補助率

1/2以内

(商店街組織から補助対象経費の1/6以上の額の支援(資金提供)が受けられることが必1/3以上の額を負担することが必要となります。商店街組織又は補助事業者が補助対象経費の1/2を超える負担をする場合、その分補助金額が減額されます。)

◆補助上限額及び下限額

上限額：補助事業者数×100万円

(ただし、補助事業者が5者以上であっても500万円を上限)

下限額：30万円

◆対象事業者

法人格を有する商店街組織のある商店街区内で事業を営んでおり、かつ当該商店街組織に加入している中小企業者又は個人事業主2者以上で構成される個店グループ

◆補助対象事業

グループの構成員の店舗が営業を行っている商店街区内で実施する販路開拓や新商品開発の取組であって、実施することによりグループ構成員の店舗等の売上及び当該商店街等の歩行者通行量の増加が見込まれる事業。

※なお、事業実施場所である商店街組織から、補助対象経費1/6以上の額の支援(資金提供)を受けられることが必要です。

◆募集期間

平成29年11月2日(木)～

平成29年11月28日(火)

※中部経済産業局あて当日消印有効

◆要望方法

①要望される方は、要望書等の関係書類を所管の経済産業局に提出してください。提出する書類に記載漏れ等がないように十分注意してください。

②提出された書類に基づいて、外部有識者等による審査委員会において審査を行い、採択案件の決定後、補助事業者全員に対して、速やかに採択又は不採択の結果を各経済産業局から通知します。

③採択された補助事業者は補助金交付要綱に基づき、所管の経済産業局長宛てに補助金の交付申請手続きを行います。経済産業局では申請受理後、審査を経て補助金の交付決定を行います。

④補助金は原則として、補助事業完了後の支払いとなります。

■青年部・女性部研修会のお知らせ

瑞浪市商店街連合会

日時：平成29年11月28日(火) 19:15～21:00

場所：瑞浪市地域交流センターときわ(瑞浪市寺河戸町1131-2)

テーマ：「魅力あるまち・店づくり・ファンづくり」

講師：コンサルティングオフィス アット・ドリーム 代表 浅井良隆氏

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。